

✚ ご挨拶

蒸し暑い日が続いております。いよいよ本格的な夏がやってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？夕風の涼味嬉しい頃ですが、どうぞお身体を大切にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

✚ 黒い治療

20年以上前からお付き合いさせていただいている患者様(女性)のお話です。この方は、15年位前に御主人の海外赴任に同行され、現在もアメリカで暮らしていらっしゃいます。2～3年に一度は帰国され定期健診をお願いされるのですが、以前ご来院なさった時にこんなお話をされました。

「向こうで突然歯の詰め物が外れ、大変困りました。急に帰国することもできないので、仕方なく日本語が通じるという現地の歯科医院へ行きました。すると、アメリカの歯科医師が私の口の中を見るや否や、周囲のスタッフや勤務医を集めて、こう言ったのです。『見てみなさい！この黒い被せ物！日本ではこんな治療をしているぞ。初めて見たな～』と言われて見世物にされました。とても恥ずかしかったです。」

アメリカの医師が言った「黒い被せ物」とは、いわゆる「銀歯」のことです。日本の保険診療で、今でも主流で行われている治療方法です。「銀歯」(銀の被せ物)は、装着直後であれば銀色をしています。しかし年数が経つと、金属の表面が酸化して黒くなってくるのです。(銀食器を思い浮かべてください。銀食器は管理が悪いと、黒っぽく変色してきますよね。)

保険診療で使用する金属で一般的に使用されているのは、概ね「金銀パラジウム合金」と言われるもので、銀：50%・パラジウム：20%・金：12%・その他18%で成り立っています。この金属を使用した被せ物・詰め物は、口の中で時間の経過と共に、金属成分がイオン化して唾液中に溶解してくるのです。

(＊イオン化しやすい金属：ニッケル・クロム・コバルト・銀・パラジウム・ロジウムなど、歯科治療において汎用されている。)

口の中は、外界から異物を摂取する際の最初の入り口となります。本能的に危険と判断した物を吐き出すことができるものと違い、金属がイオン化した成分は体内に深く静かに、^{おり}澱のように沈んでいきます。これが限界値を超えた時、人によって金属アレルギーを引き起こすこともあれば、時には手の平や足の裏に膿を伴った皮疹(掌蹠膿疱症^{しょうせきのうほうしょう})などの全身症状が現れる場合もあるのです。

医療の先進国から日本の歯科治療を見た場合、レベルが低いとみられるところがあるのは否定できません。日本の歯科の診療形態そのものが、保険治療を第一としているからです。医療者側は日々の仕事に忙殺されて、デメリットなどについてお話しする機会を失っている場合が多く、何の情報も得られない患者さんは安価な「保険」で治療を望まれる方が大多数を占めています。今後も日本の医療財政を考えると、財源が無いだけに「金銀パラジウム合金」を排除する方向にはいかないと考えられます。然しながら、現在国民の3人に1人はアレルギー体質といわれており、患者さん側での意識改革も必要になってきていると思います。

《注意点》

- ① 金属類を口の中に装着しないで済むように、天然歯を大切に守ること。
- ② 治療が必要になった場合、イオン化しにくい金属(金・白金などの貴金属)を使用することでリスクを軽減させること。或いはメタルフリーにすること。
- ③ 治療後も安心せず、メンテナンスすること。



左写真：若狭姫神社の
千年杉(福井県)

右写真：カルミアの花

